

果樹農業振興基本方針の主なポイント

令和 2 年 2 月

農林水産省



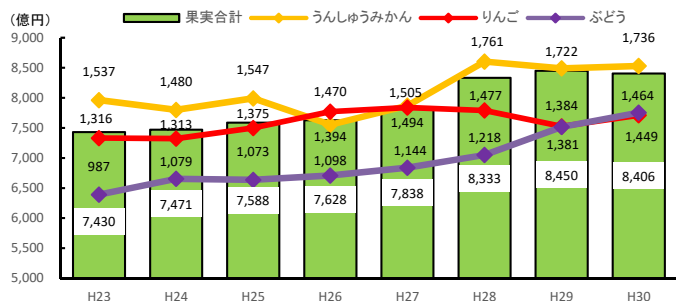
1. 果樹をめぐる状況と基本的な考え方

- 高品質な国産果実は、国内外から高い評価を受けており、輸出品目としてのポテンシャルも高い。
- 一方、① 人口減少の本格化による国内需要の減少、② 生産現場の人手不足等、生産基盤のぜい弱化による、需要減少を上回る生産量の減少、③ 頻発する大規模自然災害や気候変動による栽培環境の変化等の課題を抱えている。
- このような中、果樹農業の持続性を高めながら、成長産業化を図るため、供給過剰基調に対応した生産抑制的な施策から、低下した供給力を回復し、生産基盤を強化するための施策へ転換する必要がある。

<果樹農業の魅力と重要性>

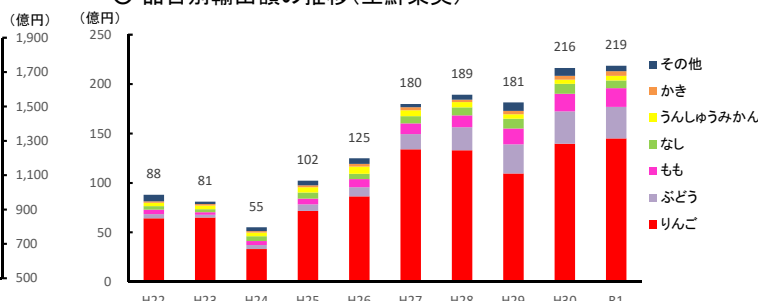
- ・ 果実の産出額は平成24年から29年までの6年間連続して増加。
- ・ 高品質な国産果実は、海外においてもニーズが高い。

○ 国産果実の産出額の推移



農林水産省「生産農業所得統計」

○ 品目別輸出額の推移(生鮮果実)

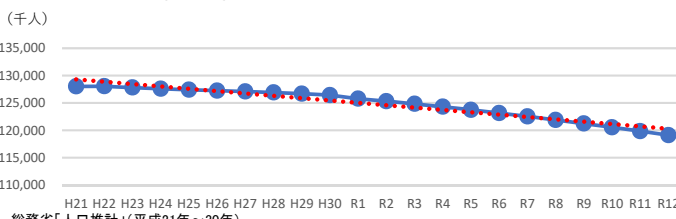


資料:財務省「貿易統計」を基に農水省にて作成

<果樹農業の現状と課題>

- ・ 人口減少の本格化により国内総需要が減少している中、生産現場の人手不足等、生産基盤のぜい弱化により、需要減少を上回る生産減少や、近年頻発する大規模自然災害や気候変動への対応が必要な状況。

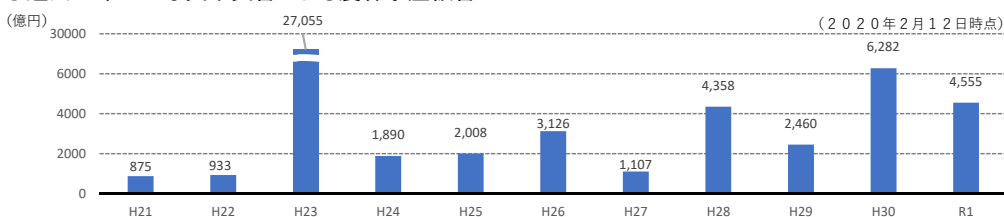
○ 将来人口の推移(推計値)



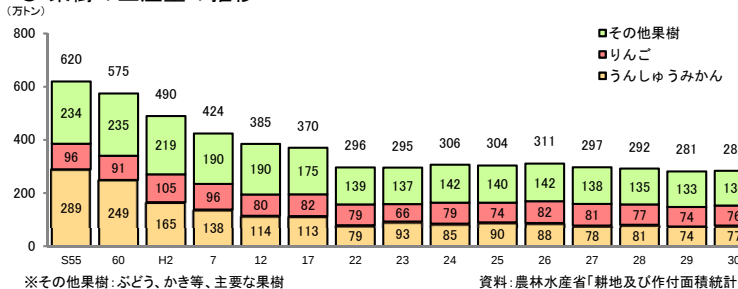
総務省「人口推計」(平成21年～30年)

国立社会法人・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(令和元年～令和12年)

○ 過去10年の主な異常災害による農林水産被害



○ 果樹の生産量の推移



※その他果樹:ぶどう、かき等、主要な果樹

資料:農林水産省「耕地及び作付面積統計」

<果樹農業の振興に向けた基本的考え方>

供給過剰基調に対応した生産抑制的な施策から、**低下した供給力を回復し、生産基盤を強化するための施策に転換する。**

- 省力樹形や機械作業体系の導入等による**労働生産性の向上**、園地・樹体を含めた次世代への円滑な経営継承、苗木・花粉等の生産資材の安定確保等を通じた**果樹の生産基盤の強化**を推進。
- 省力的・効率的な果実流通への転換に加え、果実加工品も活用した**国内外の新たな市場の獲得**を推進。
- 自然災害や鳥獣害・病害虫等の様々な**リスクへの対応力の強化**。

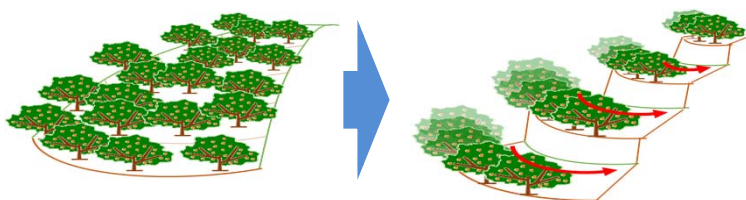
2. 生産基盤強化のための対策の推進①

- 果樹の生産基盤を強化するため、
 - ① 労働生産性の向上、② 園地・樹体を含めた次世代への円滑な経営継承、③ 苗木・花粉等の生産資材の安定確保等を推進。
- 労働生産性を向上させるため、基盤整備の実施、省力樹形や機械作業体系等の導入を一体的に推進。併せて、多品目に共通した機械化対応樹形やスマート農業技術の開発等を生産者と連携して推進。

＜労働生産性の抜本的な向上＞

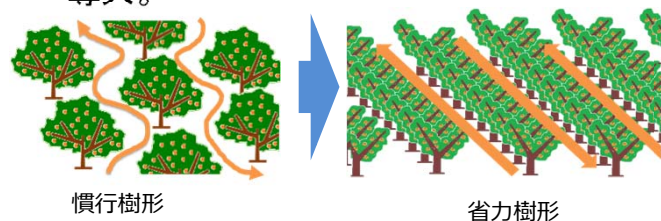
○ 基盤整備の実施

- ・ 中山間地域の急傾斜地等、厳しい条件下の園地では、傾斜の緩和、園内作業道やかん水設備の整備等が必要。

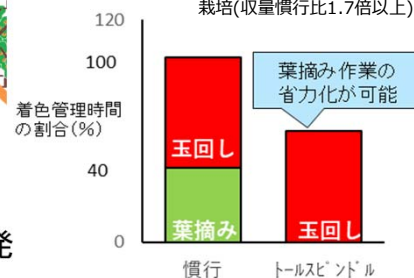


○ 省力樹形等の導入

- ・ 樹高の低い木を整列させて作業動線を確保し、作業の効率化し、かつ多収化を実現できる樹形の導入。



りんごの超高密植(トールスピンドル)栽培(収量慣行比1.7倍以上)



○ 機械作業体系の導入

- ・ AI、ロボット、IoT等の先端技術の開発
- ・ 導入により、機械作業体系を構築。



ドローンによる授粉



自動走行車両



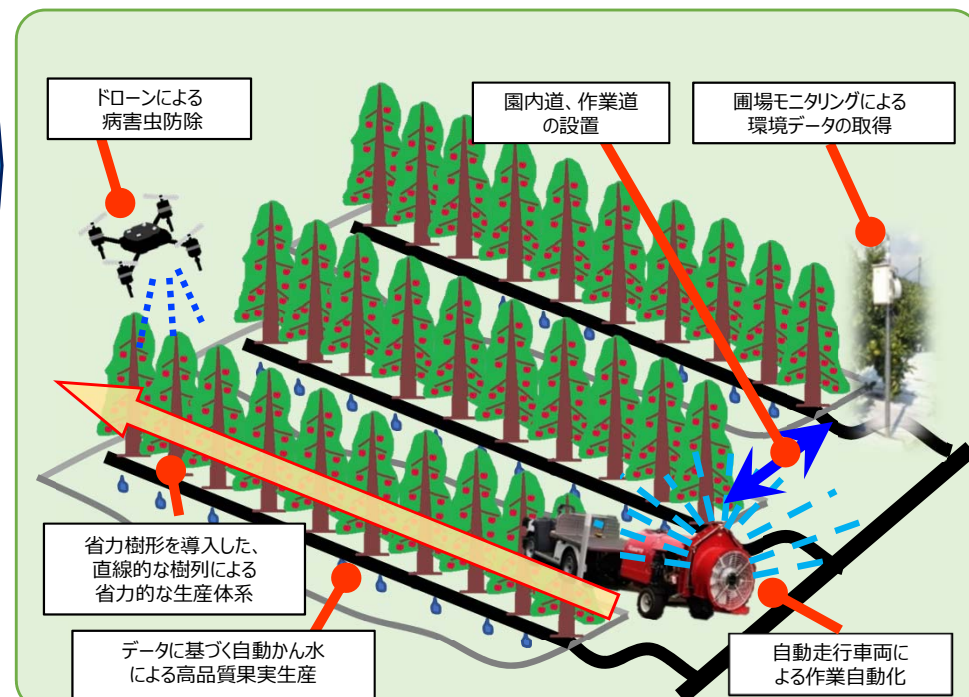
リモコン・ロボット草刈機



営農管理システム

＜目指すべき姿＞

- 平坦で作業性の良い水田の活用や、基盤整備と一体的な省力樹形、機械作業体系等の導入により、**労働生産性を高めた果樹産地づくり**を推進。



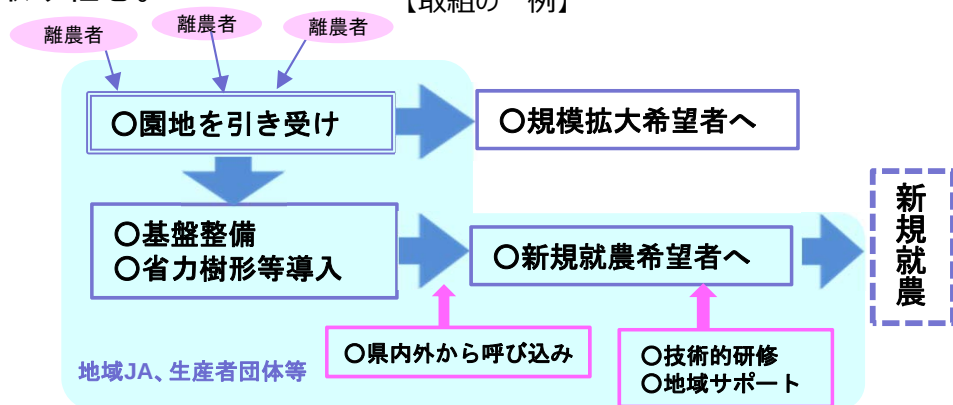
2. 生産基盤強化のための対策の推進②

- 新規就農者や後継者等の新たな担い手の育成・確保や、後継者不在の樹園地を新規就農者や担い手等に円滑に継承する取組、雇用労働力の安定確保、法人経営の育成等により、持続可能性の高い果樹産地づくりを推進。
- 苗木・花粉等の果樹生産に不可欠な資材を安定供給する体制の整備を推進。
- 大規模自然災害や、鳥獣・病害虫等によるリスクへの対応が十分でない現状を踏まえ、リスクへの備えの普及啓発や、収入保険や果樹共済といったセーフティーネットへの加入を一層推進する。さらに、様々なリスクに対し、地域全体でリスク軽減に向けた対策を講じることが重要。

<園地・樹体を含めた次世代への円滑な経営継承>

- ・ 樹体を含めた園地の継承と、担い手確保、就農者支援に一体的に取り組む。

【取組の一例】



<様々なリスクへの対応>

○ 大規模自然災害

- ・ 園地の崩落や農道の寸断、広範囲に及ぶ樹園地の浸水等、これまでにないような甚大な被害をもたらす大規模な自然災害が頻発している。



平成30年7月豪雨による
園地の崩落被害



令和元年台風第19号による
園地の浸水被害

○ 鳥獣・病害虫

- ・ 中山間地域での栽培が多い果樹農業は、野生鳥獣による被害を受けやすく、樹体が損傷する場合もある。
- ・ また、未収益期間を伴う永年性作物という特性上、一度病害虫が蔓延すると、改植を伴うような甚大な被害が生じるリスクがある。



サルによる食害により落下したかき



モモせん孔細菌病に罹病したもも

<生産資材の安定確保>

○ 苗木の生産・供給体制

- ・ 果樹産地、苗木産地が連携し、苗木の安定的な生産・供給体制を構築。

○ 花粉の生産・供給体制

- ・ 花粉専用園地の育成等により、輸入に頼らず、国内で花粉を安定的に生産・供給する体制を構築。



- 果樹共済、収入保険等のセーフティーネット措置の活用
- 地域全体でリスク軽減に向けた対策を講じる

3. 市場拡大のための対策の推進

- ライフスタイルの変化に伴う食の外部化・簡便化の進展等、消費者ニーズの変化を踏まえた「より美味しく、より食べやすく、より付加価値の高い」果実及び果実加工品の供給を拡大するとともに、食育を一層推進。
- 国内外の新たな市場獲得に向け、鮮度保持・輸送技術の向上による出荷期間の拡大、海外輸送への対応力強化、果実加工品の開発と生産拡大、輸出先国への規制等に対応した産地づくりを進め、更なる輸出の拡大と生産者の所得向上を図る。

<国内市場に対応した取組>

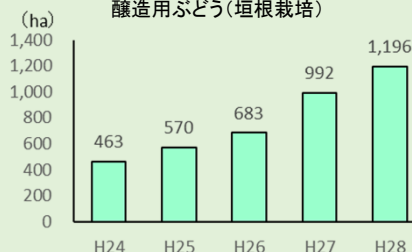
- 食の外部化・簡便化の進展、SNS等における訴求等、消費者ニーズや新たな加工用需要に対応した果実の生産拡大。
- 食べやすいカットフルーツ、冷凍フルーツのほか、日本ワインやシードル等の国産果実の醸造利用等、消費者ニーズに対応した果実加工品の供給拡大。
- 市場拡大に向けて、新たなニーズを踏まえた果実及び果実加工品の開発・普及を推進。
- 学校教育における給食や農業体験等を通じた食育の一層の推進。
- 農泊等観光との連携を推進。

<市場拡大に向けた生産供給体制の構築>

消費者ニーズに対応した果実の生産拡大



醸造用ぶどう(垣根栽培)



資料: 農林水産省「特産果樹生産動態等調査」
シャインマスカットの栽培面積

果実加工品の開発・普及



国産果実を使用した冷凍フルーツ
提供: デイブレイク(株)



宮崎県産マンゴー「太陽のタマゴ」
を使用したケーキ
提供: (株)コムサ

消費者

<海外市場に対応した取組>

○輸出に対応した生産拡大

- ・ 水田等を活用した新たな産地づくり
- ・ 輸出先国の規制等に対応した生産体系の構築
- ・ 小玉りんご等、輸出先国のニーズに対応した生産拡大

○鮮度保持技術等の開発

- ・ 長期輸送を可能とする鮮度保持技術、長期保存技術等



ナシの日持ち性(25℃で2週間)

○果実加工品



あんぽ柿



輸出用小玉りんご(右写真は下部が小玉りんご)

- 輸出先国におけるインポートトレランスの設定への対応

- 更なる輸出の拡大
- 生産者の所得向上

4. 流通面・加工面における対策の推進

- 集出荷及び輸送段階をはじめとする流通に係る労働力不足に対応し、サプライチェーン全体においてより省力的・効率的な果実流通への転換を推進。
- 「裾もの」の活用だけでなく、加工業者との契約生産栽培や付加価値を高めた「稼げる加工原料」の生産・供給拡大を推進。

<流通面における対策>

○集出荷施設における対応

- ・ 出荷規格の簡素化により選果作業の省力化・効率化を推進
- ・ プラスチックコンテナ（通いコンテナ）やパレット、パレタイザーの導入等により、荷積み作業の機械化を推進。

従来	簡素化
4L	大
3L	
2L	
L	
M	小
S	
2S	
3S	

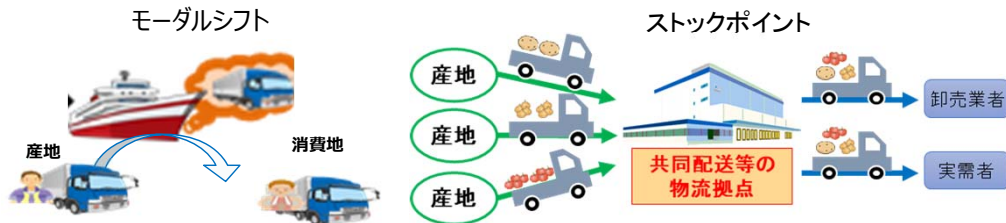
出荷規格の簡素化(例:トマト)



写真:農産物パレット推進協議会 運用実証委員会 実証実験より

○輸送段階における対応

- ・ コールドチェーンの構築、ストックポイントの整備・活用により複数産地や品目を組み合わせた混載輸送、鉄道や船舶を活用したモーダルシフト等を推進。



省力的・効果的な果実流通への転換

<加工面における対策>

○果実加工品の高付加価値化と加工向け品種の開発

- ・ 果実の風味を最大限活かすため、ストレート果汁を空気に触れない状態で搾る密閉製法や、加熱による変質がない酵素剥皮技術等の活用による、果実加工品の高品質化・高付加価値化。
- ・ 加工しやすい等、実需者のニーズに対応した加工専用品種の開発、生産拡大。



みかんストレート果汁を用いたジュース製造の様子



酵素剥皮技術(かき)

○加工原料用果実の安定確保

国産果実の加工仕向量が減少していることを踏まえ

- ・ 加工業者との契約生産
- ・ 生食用と比較して省力的な栽培が可能な「加工専用園地」を経営の中に取り入れる
- ・ 耕作放棄園地の有効活用等により、地域全体で省力的な加工原料用栽培に取り組む
- ・ 加工業者自ら加工原料用果実の栽培に取り組む等により、加工原料用果実の安定確保を推進。



機械作業に合わせた園地（加工用りんご）

「稼げる加工原料」の生産・供給拡大